

律令国家の成立

聖徳太子の死⇒⇒⇒⇒蘇我氏の勢力の強大化

645年 [] と [] は、天皇中心の政治のしくみを作るため、[] とその父 [] を倒した。

都が () に移され、新しい政治改革の方針が出された。

- ・これまで皇族や豪族が支配していた土地と民衆を、国家が支配するようになった。()
- ・豪族には、給与を与えた。
- ・都の制度のほかに () のちの郡こおり という地方支配のしくみをつくった。
- ・ () という年号をきめた。

↓ ↓

これらの改革を [] という。

その頃、朝鮮半島の百済が唐・新羅に攻められ、日本は百済に援軍を送ったが、() の戦いで大敗した。

そこで朝廷は西日本の守りを固め、都を () へ移した。() は、即位して () 天皇) となった。

天智天皇の死後、その弟 () 皇子) と () 皇子) が天皇の位を争う。

↓

↓

豪族を巻き込んで [] となる。

勝った大海人皇子は、() 天皇) となる。

- ・唐に習って律令に基づく政治のしくみを作ろうとした。

[遣隋使]

最初の遣隋使は607年に送られ、これ以後合計4回(608年, 610年, 614年)にわたり派遣されている。隋のすすんだ文化や制度を取り入れることを目的としており、公的使節だけでなく、留学生や僧も同行した。特に有名なのは第1回の派遣で、小野妹子が持参した聖徳太子の国書(日出ずる処の天子、書を日没するところの天子に致す。つつがなきや……)という件があった。)は、対等の立場を要求するものとして、隋の煬帝を激怒させたという。このときに同行した僧の旻や南淵請安、留学生の高向玄理は唐で20年余り学んだ後帰国して、大化改新の頭脳となって活躍している。

飛鳥文化

聖徳太子や蘇我氏は () を厚く信仰し、世の中に広めようとした。() は、聖徳太子が建てた今も残る世界最古の木造建築である。

特 徴

- ・仏教の影響
- ・国際的性格が強い ⇒⇒⇒ 渡来人とその子孫による文化
- ・飛鳥地方に地域限定

- 中宮寺(奈良県)、広隆寺(京都府)の弥勒菩薩の半跏像
- 法隆寺(奈良県)の五重塔、金堂、釈迦三尊像、百済観音、玉虫厨子等

この文化の中心が飛鳥地方(奈良県)にあるので、[] という。